

真人復問神人、孝子事親、親終後復事之、當與生時等邪、復有異乎。事之復過於生時、復不及也。人由親而生、得長大、見親終去、復無還期、不得受其教敕、出入有可反報、念念想象不能已矣。欲事之過生、殆其可乎。神人言、子之言、但世俗人孝之言耳。非大道意也。人生、象天屬天、人卒、象地屬地。天、父也。地、母也。事母不得過父。生、陽也。卒、陰也。事陰不得過陽。陽、君道也、陰、臣道也、事臣不得過於君。

「真人復問神人、孝子事親、親終後復事之、當與生時等邪、復有異乎。事之復過於生時、復不及也」↓『太平經』真人前。唯唯。孝子事親、親終、然後復事之、當與生時等邪。不也、事之當過其生時也。何也哉」

「人由親而生、得長大、見親終去、復無還期、不得受其教敕、出入有可反報、念念想象不能已矣。欲事之過生、殆其可乎」↓『太平經』人由親而生、得長巨焉。見親死去、迺無復還期、其心不能須臾忘。生時日相見、受教勅、出入有可反報。到死不復得相覩、訾念其悒悒、故事之當過其生時也」。

「神人言、子之言但世俗人孝之言耳。非大道意也」。↓『太平經』真人言是也、固大已失天道真實、遠復遠矣。今真人說尚如此、俗人冥冥是也、失天法明矣。」

「人卒、象地屬地」↓『太平經』人死、象地屬地也」

生、陽也、卒、陰也」↓『太平經』生人、陽也。死人、陰也」。

「陽、君道也、陰、臣道也」↓『太平經』陽、君也。陰、臣也」。

真人復た神人に問う、孝子の親に事え、親終して後、復たこれに事う。當に生時と等しくすべけんや、復た異なる有らんか。これに事うること復た生時を過ぐるも、復た及ばざるなり。人、親に由りて生まれ、長大するを得。親の終去して復た還期なきを見、其の教勅を受け、出入に反報すべき有るを得ず、念念想象して已むこと能わず。これに事うること生を過ぎんと欲するは、殆んど其れ可ならんか」。神人言わく、子の言、但だ世俗の人の孝の言のみ、大道の意に非ざるなり。人の生まるるや天を象りて天に屬し、人の卒するや地を象りて地に屬す。天は父なり。地は母なり。母に事うること父を過ぐるを得ず。生は陽なり。卒は陰なり。陰に事うること陽を過ぐるを得ず。陽は君道なり。陰は臣道なり。臣に事うること君を過ぐるを得ず。

真人がまた神人に問うた。孝子は親に仕え、親の死後もまたこれに仕えますが、生きているときと同じようにすべきでしょうか。はたまた異なるものがあるのでしょうか。親に仕えるのに生きているときよりまさったとしても、もはや及びません。人は親より生まれ、成長して大人になることができ、親が世を去って、二度と戻らないことを知り、その教訓を受け、家を出入りするたびに遣り取りすべきことがあったのに、それができなくなつて、いつも心にかけて追憶して已められません。亡き親に仕えるのに生きていたときよりまさろうとするのは、ほとんどよいことではないでしょうか。」

神人はこう言った、子の言葉は、ただ世俗の人の孝の主張というだけで、大道の意志ではない。人は生まれれば天を象つて天に属し、人は死ねば地を象つて地に属す。天は父であり、地は母である。母に仕えるのに父にまさることはできない。生は陽であり、死は陰である。陰に仕えるのに陽にまさることはできない。陽は君道であり、陰は臣道である。臣に仕えるのに君にまさることはできない。

1 孝子事親

『孝經』紀孝行章子曰。孝子之事親也。居則致其敬。養則致其樂。病則致其憂。喪則致其哀。祭則致其嚴。五者備矣。然後能事親」。

『禮記』祭統是故孝子之事親也。有三道焉。生則養。沒則喪。喪畢則祭。養則觀其順也。喪則觀其哀也。祭則觀其敬而時也。盡此三道者。孝子之行也」。

2 親終後復事之

『儀禮』既夕禮燕養・饋羞・湯沐之饌、如他日〔鄭玄注〕燕養、平常所用供養也。饋、朝夕食也。羞、四時之珍異。湯沐、所以洗去污垢。内則曰、三日具沐、五日具浴。孝子不忍一日廢其事親之禮、於下室日設之如生存也。進徹之時、如其頃」。

『孝經』喪親章子曰、孝子之喪親也、哭不偯、禮無容、言不文、服美不安、聞樂不樂、食旨不甘、此哀戚之情也。三日而食、教民無以死傷生、毀不滅性、此聖人之政也。喪不過三年、示民有終也。為之棺槨衣衾而舉之、陳其篋篋而哀感之。擗踊哭泣、哀以送之。卜其宅兆、而安措之。為之宗廟、以鬼享之。春秋祭祀、以時思之。生事愛敬、死事哀感、生民之本盡矣。死生之義備矣。孝子之事親終矣。

3 人由親而生、得長大

『釋名』釋姿容匍匐、小兒時也、匍猶捕也。藉索可執取之言也、匍伏也。伏地行也。人雖

長大及其求事盡力之勤、猶亦稱之。《詩》曰：「凡民有喪，匍匐救之」、是也。

『太平經』卷一百十四為父母不易訣「人從生至老、自致有子孫、各令長大成就、在所喜隨使安之、無逆其意、各得其宜、乃為各從其願」。

4 見親終去、復無還期

『藝文類聚』卷二十一·人部五·友悌宋陶潛祭從弟(敬遠)文曰、曰仁者壽、竊獨信之。如何斯言、獨能見斯。年甫過立、奄與世辭、長歸蒿里、邈無還期。庭樹如故、齊宇廓然。孰云敬遠、何時復旋」。

5 出入有可反報

『毛詩』小雅·谷風之什·蓼莪父兮生我、母兮鞠我、拊我畜我、長我育我、顧我復我、出入腹我、欲報之德、昊天罔極「疏」毛以為此言父母生養之恩、已思報之。言父兮本流氣以生我、母兮以懷任以養我。又拊循我、起止我、長遂我、覆育我、顧視我、反覆我。其出入門戶之時、常愛厚我、是生我劬勞也。我今欲報父母是勞苦、之德昊天乎、心無已也。常所憶念、無有已時、故言已痛切之情、以告於天。

『禮記』曲禮上第一夫為人子者出必告、反必面告〔注〕言面者從外來、宜知親之顏色安否。『禮記』樂記樂也者施也。禮也者報也。樂樂其所自生、而禮反其所自始、樂章德、禮報情、反始也〔正義〕曰此明禮樂之別、報施不同。樂也者施也」者、言作樂之時、眾庶皆聽之、而無反報之意、但有恩施而已。故云樂也者施也。禮也者報也者、禮尚往來受人禮、事必當報之也。故曲禮云、往而不來、非禮。故云禮也者報也。(略)○而禮反其所自始」者言、王者制禮 必追反其所由始祖。若周由后稷為始祖 即追祭后稷 報其王業之由 是禮有報也(略)行禮者他人有恩於已、已則報其情、但先祖既為始於子孫、子孫則反報其初始」。

9 念念想象、不能已矣

『顏氏家訓』歸心有天眼、鑒其念念隨滅、生生不斷、豈可不怖畏邪」

『禮記』曲禮上為人子者、(略)聽於無聲、視於無形、不登高、不臨深、不苟訾、不苟笑〔疏〕聽於無聲者、謂聽而不聞父母之聲、此明人子常禮也○視於無形者、謂視而不見父母之形、雖無聲無形、恒常於心想像、似見形聞聲、謂父母將有教使已然也。

1 人生、象天屬天、人卒、象地屬地

『周易』兼義·咸〔正義〕竊謂乾坤明天地初闢、至屯乃剛柔始交、故以純陽象天、純陰象地則咸以明人事、人物既生、共相感應」。

『周禮』春官宗伯下·典同典同掌六律六同之和、以辨天地四方陰陽之聲、以為樂器〔注〕陽聲屬天、陰聲屬地、天地之聲、布於四方為作也」

『太平經』卷四十九急學真法」夫古者本元氣天生之時、人盡樂學欲仙、尚不能壽。纔使人各畏死、不犯刑法耳。夫下古人大愚、反誦浮華相教、共學不壽之業、生時忽然、自言若且無死、反相教、無可愛惜、共興凶事、治死喪過生、生乃屬天也、死乃屬地、事地反過其天、是大害也。」

『太平經』卷七十學者得失訣」故善者上行、命屬天、猶生人屬天也。惡者下行、命屬地、猶死者惡、故下歸黃泉、此之謂也」

『太平經』卷九十三陽尊陰卑訣」天者、仁賢明儒道術聖智也。又天者、能乘氣而飛、此六人、其上才而志真道不懈者、亦乃至於能乘氣而飛、故屬天象天也」

8 天、父也。地、母也。事母不得過父。

『太平經』卷四十八三合相通訣」故君為父、象天。臣為母、象地。民為子、象和」。

9 陽、君道也、陰、臣道也、事臣不得過於君。

『周易』兼義·繫辭下陽、一君而二民、君子之道也。陰、二君而一民、小人之道也〔注〕陽、君道也。陰、臣道也。君以無為統眾、無為則一也。臣以有事代終、有事則二也」。

『太平經』卷六十九天讖支干相配法」天之格分也、陽者為天、為男、為君、為父、為長、為師、陰者為地、為女、為臣、為子、為民、為母。」

『太平經』卷一百十三樂怒吉凶訣」故樂者、陽也。刑罰者、陰也。陰之與陽、乃更相反、陽興則陰衰、陰興則陽衰。陽者、君也。陰者、臣也。君盛則臣服、民易治。臣盛則君治侮亂。此天自然之法也。

事陰過陽、即致陰陽氣逆而生災事。小過大、即致政逆而禍大。陰氣勝陽、下欺上、鬼神邪物大興、而晝行人道、疾疫不絕、而陽氣不通、君道衰、臣道強盛。是以古之有道帝王、興陽為至、降陰為事。夫日、陽也。夜、陰也。日長即夜短、夜長即日短。日盛即生人盛、夜盛即鬼神盛。夫人以日俱、鬼以星俱。日、陽也、星、陰也。故日見即星逃、星見即日入。故陰勝即鬼神為害、與陰所致、為害如此也。

「事陰過陽、即致陰陽氣逆、而生災事。小過大、即致政逆、而禍大。」↓『太平經』

「事陰反過陽、則致逆氣。事小過則致小逆、大過則致大逆、名為逆氣、名為逆政」

「陰氣勝陽、下欺上、鬼神邪物大興、而晝行人道、疾疫不絕、而陽氣不通」↓『太平經』

「其害使陰氣勝陽、下欺其上、鬼神邪物大興、共乘人道、多晝行不避人也。今使疾病不得絕、列鬼行不止也。其大咎在此、子知之邪、子知之耶」

「君道衰、臣道強盛。是以古之有道帝王、興陽為至、降陰為事」↓『太平經』ナシ。

「夫日、陽也、夜、陰也。日長即夜短、夜長即日短、日盛即生人盛、夜盛即鬼神盛」↓『太平經』「若晝大興長則致夜短、夜興長則致晝短、陽興則勝其陰、陰伏不敢妄見、則鬼神藏矣。陰興則勝其陽、陽伏、故鬼神得晝見也。」。日と晝を区別

「夫人以日俱、鬼以星俱。日、陽也。星、陰也。故日見即星逃、星見即日入、故陰勝、即鬼神為害、與陰所致、為害如此也」↓『太平經』「夫生人、與日俱也。奸鬼物、與星俱也。日者、陽也。星者、陰也。是故日見則星逃、星見則日入。故陰勝則鬼物共為害甚深、不可名字也。迺名為興陰、反衰陽也。使治失政、反傷生人。此其為過甚重」、

陰に事うること陽に過ぐれば、即ち陰陽の氣の逆するを致して災事を生ぜん。小の大を過ぐれば、即ち政逆を致して禍い大ならん。陰氣の陽に勝り、下の上を欺けば、鬼神邪物は大いに興りて晝に人道を行き、疾疫は絶えず、而陽氣は通ぜず。君道は衰え、臣道は強盛す。是を以て古の有道の帝王は、陽を興すを至と爲し、陰を降すを事と爲す。夫れ日は陽なり、夜は陰なり。日長ければ即ち夜短く、夜長ければ即ち日短し。日盛んなれば即ち生人盛ん、夜盛んなれば即ち鬼神盛ん。夫れ人は日と以て俱にし、鬼は星を以て俱にす。日は陽なり、星は陰なり。故に日見れば即ち星逃れ、星見れば即ち日入る。故に陰勝れば即ち鬼神害を爲し、陰に与する(興陰)の致す所、害を爲すこと此の如きなり。

陰に仕えること陽にまされば、たちまち陰陽の氣が逆転し、災いを生じる。小が大にまされば、たちまち政治が逆転して大きな禍いとなる。陰氣が陽氣にまさり、下が上を欺けば、鬼神・邪物が大いに興り、白昼に人界の道路を横行し、疫病は絶えることなく、陽氣が滯る。君主の道は衰え、臣下の道が強勢となる。このため、古の有道の帝王は、陽を興すことを至上のこととし、陰を降すことをとめとした。そもそも昼間は陽であり、夜間は陰である。昼が長ければつまりは夜が短く、夜が長ければつまりは昼が短い。昼が盛んであればつまりは生きた人々が盛んになり、夜が盛んであればつまりは鬼神が盛んである。そもそも人は昼とともにあり、鬼は星とともにある。太陽は陽であり、星は陰である。このため太陽が現れるとすぐに星は隠れ、星が現れるとすぐに太陽は沈む。このため、陰がまされば直ちに鬼神は害を行う。陰に与したことで招くものはこのような災害をおこすのである。

一 事陰過陽、即致陰陽氣逆而生災事

『後漢書』卷六順帝紀永建四年春正月丙寅、詔曰、朕託王公之上、涉道日寡、政失厥中、陰陽氣隔、寇盜肆暴、庶獄彌繁、憂悴永歎、疚如疾首」。

『周禮』秋官司寇下·蜡氏蜡氏掌除骹〔疏〕先鄭云、(骹)死人骨也者、以人骨為主。其中兼四足之骨也。月令者、彼據孟春、春是生氣、骨是死氣、為死氣逆生氣、故埋之」。

『禮記』月令(孟春)行秋令、則其民大疫、森風暴雨總至〔注〕正月宿直尾箕、箕好風、其氣逆也。回風為森〕藜莠蓬蒿並興〔注〕生氣亂、惡物茂」。

2 小過大、即致政逆而禍大

『後漢書』五行志五行傳曰、田獵不宿、飲食不享、出入不節、奪民農時、及有姦謀、則木不曲直。〔註〕鄭玄曰、君行此五者、為逆天東宮之政。東宮於地為木、木性或曲或直、人所用為器也。無故生不暢茂、多折槁、是為木不曲直。木、金、水、火、土謂之五材、春秋傳曰、天生五材、民並用之。其政逆則神怒、神怒則材失性、不為民用。其他變異皆屬沴、沴亦神怒。凡神怒者、日、月、五星既見適于天矣。』

3 陰氣勝陽、下欺上

『漢書』卷二十七中之上·五行志第七中之上·貌羞上嫚下暴、則陰氣勝、故其罰常雨也。水傷百穀、衣食不足、則姦軌並作、故其極惡也」。

『南齊書』卷十九·五行志貌傳曰、失威儀之制、怠慢驕恣、謂之狂、則不肅矣。下不敬、則上無威。天下既不敬、又肆其驕恣、肆之則不從。夫不敬其君、不從其政、則陰氣勝、故曰厥罰常雨。』

『春秋左傳』僖公下義其罪、上賞其姦、上下相蒙、難與處矣。〔疏〕正義曰在下者、以貪天之功為立君之義、是下義其罪也。在上者以立君之勳、賞盜天之罪、是上賞其姦也。居下者義其罪、是下欺上也。居上者賞其姦、是上欺下也。如此上下相欺、蒙難可與並居處矣」。

4 鬼神邪物大興、而晝行人道

『禮記』祭統及時將祭、君子乃齊。(略)及其將齊也、防其邪物、訖其嗜欲。耳不聽樂、故記曰齊者不樂、言不敢散其志也」

『太平經』卷七十二不用大言無效訣」夫天地之間、時時有是暴鬼·邪物·凶殃·尸咎·殺客、當其來著人時、比如刀兵弓弩之矢毒著人身矣」。

『舊唐書』卷十九下·僖宗紀(中和三年)天下行營兵馬都監·楊復光(略)曰、頃者妖興霧市、嘯聚叢祠、(略)賊首黃巢、因得充盈窟穴、蔓延萑蒲、驅我蒸黎、徇其凶逆。展鉏鶴以成鋒刃、殺耕牛以恣燔炮、魑魅晝行、虺蜴夜噬」。

5 是以古之有道帝王、興陽為至、降陰為事。

○太平經合校卷一百十三(庚部之十一)樂怒吉凶訣第一百九十一

故樂者、陽也。刑罰「二七」者、陰也。陰之與陽、乃更相反、陽興「二八」則陰衰「二九」、陰興則陽衰。陽者、君也。陰者、臣也。君盛則臣服、民易治「三〇」。臣盛則君治「三一」侮亂。此天自然之法也。

9 夫日、陽也。夜、陰也。日長即夜短、夜長即日短。日盛即生人盛、夜盛即鬼神盛。

『漢書』卷二十六·天文志晷景者、所以知日之南北也。日、陽也。陽用事則日進而北、晝進而長、陽勝、故為溫暑。陰用事則日退而南、晝退而短、陰勝、故為涼寒也。故日進為暑、退為寒」。

『晉書』卷十一·天文志上

吳太常姚信造昕天論云…又冬至極低、而天運近南、故日去人遠、而斗去人近、北天氣至、故冰寒也。夏至極起、而天運近北、故斗去人遠、日去人近、南天氣至、故蒸熱也。極之高時、日行地中淺、故夜短。天去地高、故晝長也。極之低時、日行地中深、故夜長。天去地下、故晝短也。」

「夫人以日俱、鬼以星俱

『莊子』外篇在宥處乎無響、行乎無方、挈汝適復之撓撓、以遊無端、出入無旁、與日無始。〔疏〕與日俱新、故無終始」。

∞ 故日見即星逃、星見即日入

『漢書』卷二十六·天文志第六太白經天、天下革、民更王、(「三」孟康曰…謂出東入西、出西入東也。太白、陰星、出東當伏東、出西當伏西、過午為經天。晉灼曰…日、陽也。日出則星亡。晝見午上為經天。」)是為亂紀、人民流亡。晝見與日爭明、疆國弱、小國疆、女主昌」。

五星悉經天、天變所未有也。石氏說曰…辰星晝見、其國不亡則大亂。」

『晉書』卷十三天文下·月五星犯列舍永寧元年、自正月至于閏月、五星互經天、縱橫無常。星傳曰、日陽、君道也。星陰、臣道也。日出則星亡、臣不得專也。晝而星見午上者為經天、其占為不臣、為更王」。今五星悉經天、天變所未有也。石氏說曰…辰星晝見、其國不亡則大亂。」

『太平經』卷九十二萬二千國始火始氣訣「故守善道者、凶路自絕、不教其去而自去。守凶道者、言路自絕。此猶若日出而星逃、星出而日入、不失銖分」。

9 故陰勝即鬼神為害、與陰所致、為害如此也。

『漢書』卷二十七下之上·五行志下之上·五行皆失·人痾史記魏襄王十三年、魏有女子化

為丈夫。京房易傳曰、女子化為丈夫、茲謂陰昌、賤人為王。丈夫化為女子、茲謂陰勝、厥咎亡。」

『晉書』卷二十七・五行志上・水升平二年五月、大水。五年四月、又大水。是時桓溫權制朝廷、專征伐、陰勝陽也」。

『太平經』卷四十五・起土出書訣比若家人、父怒治其子也、其變即生。父子不和、恨子不順從嚴父之教令、則生陰勝其陽、下欺其上、多出逆子也。臣失其職、鬼物大興、共病人、姦猾居道傍、諸陰伏不順之屬、咎在逆天地也」。

*興陰」↓興陰」か？

上古之人理喪、但心至而已、送終不過生時、人心純朴、少疾病。中古理漸失法度、流就浮華、竭資財為送終之具、而盛於祭祀、而鬼神益盛、民多疾疫、鬼物為崇、不可止。下古更熾祀他鬼而興陰、事鬼神而害生民、臣秉君權、女子專家、兵革暴起、奸邪成黨、諂諛日興、政令日廢、君道不行。此皆興陰過陽、天道所惡、致此灾咎、可不慎哉。

「上古之人理喪、但心至而已、送終不過生時、人心純朴、少疾病」↓『太平經』「以上古聖人治喪、心至而已、不敢大興之也。夫死喪者、天下大凶惡之事也。興凶事者為害、故但心至而已、其飲食象生時不負焉。故其時人多吉而無病也、皆得竟其天年。」

「中古理、漸失法度、流就浮華、竭資財為送終之具、而盛於祭祀。」↓『太平經』「中古送死治喪、小失法度、不能專、其心至而已、失其意、反小敬之、流就浮華、以厭生人、心財半至其死者耳」

「而鬼神益盛、民多疾疫、鬼物為崇、不可止」↓『太平經』「死人鬼半來食、治喪微違實、興其祭祀、即時致邪、不知何鬼神物來共食其祭、因留止崇人、故人小小多病也」。

「下古更熾祀他鬼而興陰、事鬼神而害生民、臣秉君權、女子專家、兵革暴起、奸邪成黨、諂諛日興、政令日廢、君道不行」↓『太平經』「下古復承負中古小失、增劇大失之、不心至其親而已、反欲大厭生人、為觀古者作榮、行失法、反合為偽、不能感動天、致其死者、鬼不得常來食也。反多張興其祭祀、以過法度、陰興反傷衰其陽。不知何鬼神物悉來集食、因反放縱、行為害賊、殺人不止、共殺一人者……陰強陽弱、厭生人、臣下欺上、子欺父、王治為其不平、而民不覺悟、故邪日甚劇、不復拘制也」。

上古の人の喪を理むるは、但だ心至のみ。送終は生時を過ぎず、人心は純朴にして、疾病

少なし。中古、理むること漸く法度を失い、流れて浮華に就き、資財を竭くして送終の具と爲し、祭祀を盛んにす。而るに鬼神益ます盛んにして民は疾疫多く、鬼物は祟りを爲して止むべからず。下古、更に熾んに他鬼を祀りて陰を興し、鬼神に事えて生民を害す。臣は君權を乗り、女子は家を専らにし、兵革は暴起し、奸邪は黨を成し、誣讒は日び興り、政令は日び廢れ、君道は行れず。此れ皆な陰を興すこと陽を過ぎ、天道の惡む所、此の灾咎を致す、慎しまざるべけんや。

上古の人が喪を営むのは、ただひたすらに心を尽くすだけであり、服喪は生きているときをしのぐことなく、人心は純朴で、病氣も少なかった。中古には喪を営むのにだんだんと規範を失い、浮華（うわつらの華やかさ）に流れ、資財を尽くして服喪の道具立てとし、祭祀を盛んにし、こうして鬼神は益々盛んになり、民衆は病氣が多くなり、鬼物が祟りをなすようになって、止まることができなくなった。下古になるとさらに盛んに祖先以外の鬼も祀って陰を興隆させ、鬼神につかえて生きている民を害し、臣下は君主の権力をのっとり、女子が家を牛耳り、戦乱が勃発し、人を欺く邪悪な人物が朋党を結成し、こびへつらう者が日々勢いをまし、政令は日々廢れ、君道は行われなくなる。これはすべて陰を興隆させて陽をしのぎ、天道のにくむ所となって、その戒めとして災いを招いているのである。慎むべきではなからうか。

1 上古之人理喪

『孟子』滕文公章句上「吾聞夷子墨者、墨之治喪也、以薄為其道也」

2 但心至而已

『禮記』祭義「孝子將祭、慮事不可以不豫、比時具物、不可以不備、虛中以治之。（略）宮室既脩、牆屋既設、百物既備、夫婦齊戒、沐浴盛服、奉承而進之、洞洞乎、屬屬乎、如弗勝、如將失之。其孝敬之心至也與。薦其薦俎、序其禮樂、備其百官、奉承而進之。〔疏〕正義曰、洞洞屬屬、是嚴敬之貌。言孝子之心、奉承而進祭之時、其心洞洞乎屬屬乎、恭敬心甚、如舉物之弗勝、心所奉持、如似將失於物。此是孝子心、敬之至極也。

『舊唐書』卷二十三・禮儀志第三・封禪「凡祭者、本以心為主、心至則通於天地、達於神祇」

3 送終不過生時

『禮記』檀弓上「子思曰、喪三日而殯、凡附於身者、必誠必信、勿之有悔焉耳矣。三月而

葬、凡附於棺者、必誠必信、勿之有悔焉耳矣。喪三年以為極亡、則弗之忘矣。故君子有終身之憂。而無一朝之患、故忌日不樂。「疏」正義曰、此一節、論、喪之初死及葬、送終之具、須盡孝子之情、及思念父母不忘之事。(略)凡附於身者、謂衣衾也。夫祀必求仁者之粟、故送終之物、悉用誠信、必令合禮、不使少有非法(略)附謂明器之屬、亦當必誠信、不追悔也」

『漢書』卷九十一貨殖傳「其爵祿·奉養·宮室·車服·棺槨·祭祀·死生之制、各有差品、小不得僭大、賤不得踰貴。夫然、故上下序而民志定。於是辯其土地·川澤·丘陵衍沃原隰之宜、教民種樹畜養。五穀·六畜及至魚鼈·鳥獸·藿蒲·材幹·器械之資、所以養生送終之具、靡不皆有」。

『儀禮』聘禮「歸執圭復命于殯、升自西階、不升堂。「疏」案禮記奔父母之喪、升自西階、此復命於殯、亦升自西階法。生時出必告、反必面、故云臣子於君父、存亡同也

4 人心純朴

『莊子』外篇·馬蹄「故純樸不殘、孰為犧尊(略)夫殘樸以為器、工匠之罪也「疏」純樸、全木也。不殘、未彫也。孰、誰也。犧尊、酒器、刻為牛首、以祭宗廟也。」

5 中古理漸失法度

『漢書』卷六武帝紀(天漢元年)「秋、閉城門大搜。「注」臣瓚曰、漢帝年記六月禁踰侈、七月閉城門大搜、則搜索踰侈者也。李奇曰、搜索巫蠱也。師古曰::時巫蠱未起、瓚說是也。踰侈者、踰法度而奢侈也。」發謫戍屯五原」。

『北史』卷七十一·隋宗室諸王·文帝四王·秦王俊佖「(秦王)俊所為侈麗物悉命焚之。敕送終之具、務從儉約、以為後世法」。

6 流就浮華、

『太平經』卷三十六·守三實法「皆以此為大害。所從來者久、亦非獨今下古後世之人過也、傳相承負、失其本真實。悉就浮華、因還自愁自害、不得竟其天年也」。

『太平經』卷五十·去浮華訣第七十二「天地之性、非聖人不能獨談通天意也。故使說、內則不能究於天心、出則不能解天文明地理、以占覆則不中、神靈不為其使、失其正路、遂從惑亂、故曰就浮華、不得共根基至意」。

『太平經』卷一百五十四至一百七十·神人真人聖人賢人自占可行是與非法「外學多、內學少、外事日興、內事日衰、故人多病、故多浮華。浮者、表也。華者、末也」。

「竭資財為送終之具、而盛於祭祀、

『史記』卷三十·平準書「古者嘗竭天下之資財以奉其上、猶自以為不足也」。

『後漢書』卷八十五·東夷·高句驪傳「其昏姻皆就婦家、生子長大、然後將還、便稍營送

終之具。金銀財幣盡於厚葬、積石為封、亦種松柏」。

8 而鬼神益盛、民多疾疫、鬼物為祟、不可止。

『舊唐書』卷一百八十六上·酷吏上·萬國俊傳「則天後知其冤濫、下制、被六道使所殺之家口未歸者、並遞還本管。萬國俊等俄亦相次而死、皆見鬼物為祟、或有流竄而終。」

5 下古更熾祀他鬼、而興陰

『論語』為政「子曰非其鬼而祭之諂也。見義不為無勇也、而不能為是無勇。」「疏」正義曰、此章言、祭必已親、勇必為義也。非其鬼而祭之諂也者、人神曰鬼、言若非已祖考而輒祭他鬼者、是諂媚求福也」

6 臣秉君權、女子專家

『漢書』卷二十七下之上·五行志下之上·五行皆失「成帝建始三年十月丁未、京師相驚、言大水至。渭水虜上小女陳持弓年九歲、走入橫城門、入未央宮尚方掖門(略)民以水相驚者、陰氣盛也。小女而入宮殿中者、下人將因女寵而居有宮室之象也。(略)是時、帝母王太后弟鳳始為上將、秉國政、天知其後將威天下而入宮室、故象先見也。其後、王氏兄弟父子五侯秉權、至莽卒篡天下、蓋陳氏之後云」。

『三國志』卷二十八·鍾會傳「(鍾)會為其母傳曰、夫人張氏、(略)太傅定陵成侯之命婦也(略)充成侯家、修身正行、非禮不動、為上下所稱述。貴妾孫氏、攝嫡專家、心害其賢、數讒毀無所不至」。

7 兵革暴起

『禮記』月令「(季春)行秋令、則天多沈陰、淫雨蚤降、兵革並起(陰氣勝也)」
『漢書』卷二十七下之下·五行志第七下之下·五行皆失·日食「(惠帝七年)五月丁卯、先晦一日、日有食之、幾盡、在七星初。(略)京房易傳曰、凡日食不以晦朔者、名曰薄。人君誅將不以理、或賊臣將暴起、日月雖不同宿、陰氣盛、薄日光也。」

8 奸邪成黨

『孔子家語』卷一·始誅「孔子曰、居、吾語汝以其故。天下有大惡者五(略)此五者有一於人、則不免君子之誅、而少正卯皆兼有之。其居處足以撮徒成黨」
『三國志』卷一·武帝紀注引『魏書』「初、城陽景王劉章以有功於漢、故其國為立祠、青州諸郡轉相倣效、濟南尤盛、至六百餘祠。(略)太祖到、皆毀壞祠屋、止絕官吏民不得祠祀。及至秉政、遂除姦邪鬼神之事、世之淫祀由此遂絕。」

9 諛諛日興

『漢書』卷四十八·賈誼傳「服鳥賦」

進言者皆曰天下已安已治矣，臣獨以為未也。曰安且治者，非愚則諛，（〔師古注〕實謂治安，則是愚也。知其不爾而假言之，是諛諛也）「皆非事實知治亂之體者也。」

10 政令日廢

『周禮正義』卷五 孫詒讓正義「小宰之職、掌建邦之宮刑、以治王宮之政令。〔正義〕凡施行為政、布告為令」

二 此皆興陰過陽、天道所惡、致此灾咎

『後漢書』卷六·順帝紀（陽嘉元年）「辛卯，詔曰、閒者以來、吏政不勤、故灾咎屢臻、盜賊多有。退省所由、皆以選舉不實、官非其人、是以天心未得、人情多怨」。

12 可不慎哉

『後漢書』禮儀志上「夫威儀、所以與君臣、序六親也。若君亡君之威、臣亡臣之儀、上替下陵、此謂大亂。大亂作、則羣生受其殃、可不慎哉」

『太平經』本文

真人前。唯唯。孝子事親、親終、然後復事之、當與生時等邪。不也、事之當過其生時也。何也哉。人由親而生、得長巨焉。見親死去、迺無復還期、其心不能須臾忘。生時日相見、受教勅、出入有可反報；到死不復得相覩、訾念其悵悵、故事之當過其生時也。真人言是也、固大已失天道真實、遠復遠矣。今真人說尚如此、俗人冥冥是也、失天法明矣。何謂也。唯天師。然、人生、象天屬天也。人死、象地屬地也、天、父也。地、母也、事母不得過父。生人、陽也。死人、陰也。事陰不得過陽。陽、君也。陰、臣也。事臣不得過君。事陰反過陽、則致逆氣；事小過則致小逆、大過則致大逆、名為逆氣、名為逆政。其害使陰氣勝陽、下欺其上、鬼神邪物大興、共乘人道、多晝行不避人也。今使疾病不得絕、列鬼行不止也。其大咎在此、子知之邪、子知之耶。愚生大不及有過不也。今見天師已言、迺惻然大覺。師幸原其勉勉慎事、開示其不達、今是過小微、何故迺致此乎哉。事陰過陽、事下過上、此過之大者也。極於此、何等迺言微乎。真人復重不及矣。又生人、乃陽也。鬼神、迺陰也。生人屬晝、死人屬夜、子欲知其大深放*此。若晝大興長則致夜短、夜興長、則致晝短、陽興則勝其陰、陰伏不敢妄見、則鬼神藏矣。陰興則勝其陽、陽伏、故鬼神得晝見也。夫生人、與日俱也；奸鬼物、與星俱也。日者、陽也。星者、陰也。是故日見則星逃、星見則日入。故陰勝則鬼物共為害甚深、不可名字也。迺名為興陰、反衰陽也。使治失政、反傷生人。此其為過甚重、子深計之。唯唯。

以上古聖人治喪、心至而已、不敢大興之也。夫死喪者、天下大凶惡之事也。興凶事者為害、故但心至而已、其飲食象生時不負焉。故其時人多吉而無病也、皆得竟其天年。中古送死治喪、小失法度、不能專、其心至而已、失其意、反小敬之、流就浮華、以厭生人、心財半、至其死者耳。死人鬼半來食、治喪微違實、興其祭祀、即時致邪、不知何鬼神物來共食其祭、因留止崇人、故人小小多病也。下古復承負中古小失、增劇大失之、不心至其親而已、反欲大厭生人、為觀古者作榮、行失法、反合為偽、不能感動天、致其死者、鬼不得常來食也。反多張興其祭祀、以過法度、陰興反傷衰其陽。不知何鬼神物悉來集食、因反放縱、行為害賊、殺人不止、共殺一人者。見興事不見罪責、何故不力為之乎？是故邪氣日多、還攻害其主也、習得食隨生人行不置也。陰強陽弱、厭生人、臣下欺上、子欺父、王治為其不平、而民不覺悟、故邪日甚劇、不復拘制也。是故古者聖賢事死、不敢過生、迺禁明也。真人亦豈已解耶。可卜*亥哉、可卜*亥哉。嚮天師不示、愚生心無由得知此也。真人前、子與吾合心、必天使子主問事、不可自易也。是以吾悉告子也。所以然者、今良平氣且臨至、凡事當順、一氣逆、轉不至。何謂也。夫天道、當興陽也而衰陰、則致順、令反興陰而厭衰陽、故為逆也。反為敬凶事、致凶氣、令使治亂失其政位、此非小過也。